

令和6年度 中小企業診断士第1次試験

■過去3年間の平均点の推移

	R04	R05	R06
経済学・経済政策	53.9	57.5	57.9
財務・会計	59.4	60.3	57.8
企業経営理論	59.2	61.1	67.9
運営管理	58.5	54.6	60.6
経営法務	63.1	61.4	54.4
経営情報システム	55.1	53.7	51.8
中小企業経営・政策	55.5	60.4	52.2
	57.8	58.4	58.0

■令和6年度の各科目の状況（全体）

	平均点	標準偏差
経済学・経済政策	57.9点	14.6
財務・会計	57.8点	14.2
企業経営理論	67.9点	10.4
運営管理	60.6点	9.8
経営法務	54.4点	11.2
経営情報システム	51.8点	14.2
中小企業経営・政策	52.6点	10.7

	60点以上の割合	40点未満の割合
経済学・経済政策	49.9%	5.4%
財務・会計	49.9%	9.4%
企業経営理論	80.1%	1.8%
運営管理	57.4%	3.6%
経営法務	43.9%	5.0%
経営情報システム	33.4%	15.3%
中小企業経営・政策	29.2%	12.5%

	最高点	最低点
経済学・経済政策	88点	8点
財務・会計	92点	24点
企業経営理論	90点	23点
運営管理	80点	22点
経営法務	72点	16点
経営情報システム	80点	16点
中小企業経営・政策	79点	26点

■令和6年度の各科目の状況（合格基準をクリアされた方の状況）

	平均点	最高点	最低点
経済学・経済政策	66.0点	88点	48点
財務・会計	65.0点	92点	40点
企業経営理論	73.7点	90点	62点
運営管理	65.7点	80点	49点
経営法務	59.7点	72点	40点
経営情報システム	60.4点	80点	40点
中小企業経営・政策	56.5点	71点	43点

注）当校で実施した採点サービスのデータに基づいたものであり、本試験全体のものとは異なりますので、予めご了承ください。

《コメント》

当校の採点サービスにご参加くださりまして、誠にありがとうございました。8月18日現在の受験生の皆様のデータを集計致しました。（有効回答者のみのデータ）

単純に比較することはできませんが、令和6年度の本試験は例年並みの難易度であったと考えます。

①平均点が低下した科目

「財務・会計」「経営法務」「経営情報システム」「中小企業経営・政策」

②平均点が上昇した科目

「企業経営理論」「運営管理」

③横ばいの科目

「経済学・経済政策」

したがって、平均点の高い科目（「企業経営理論」「運営管理」等）で、平均点の低い科目（「経営法務」「経営情報システム」「中小企業経営・政策」）の不足分をしっかりとカバーできたかで合否が決まると考えます。

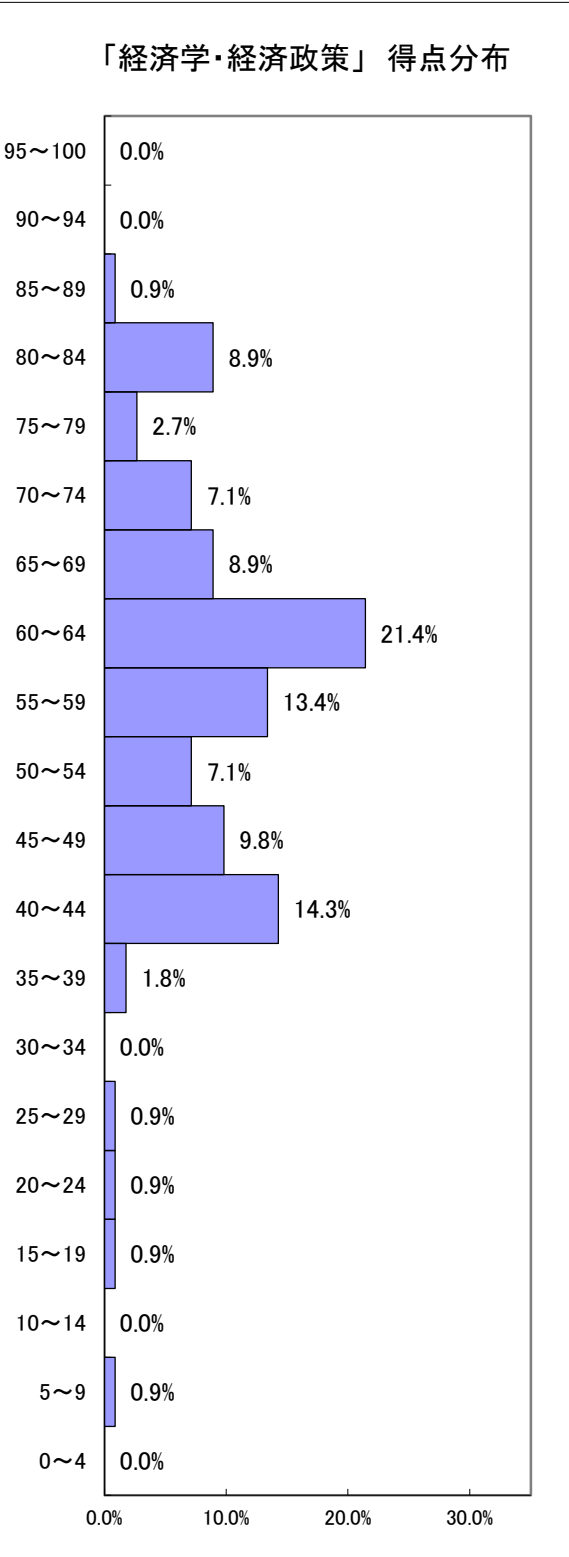
ご協力くださいました皆様、誠にありがとうございました。当校職員一同、皆様の試験合格と今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

A

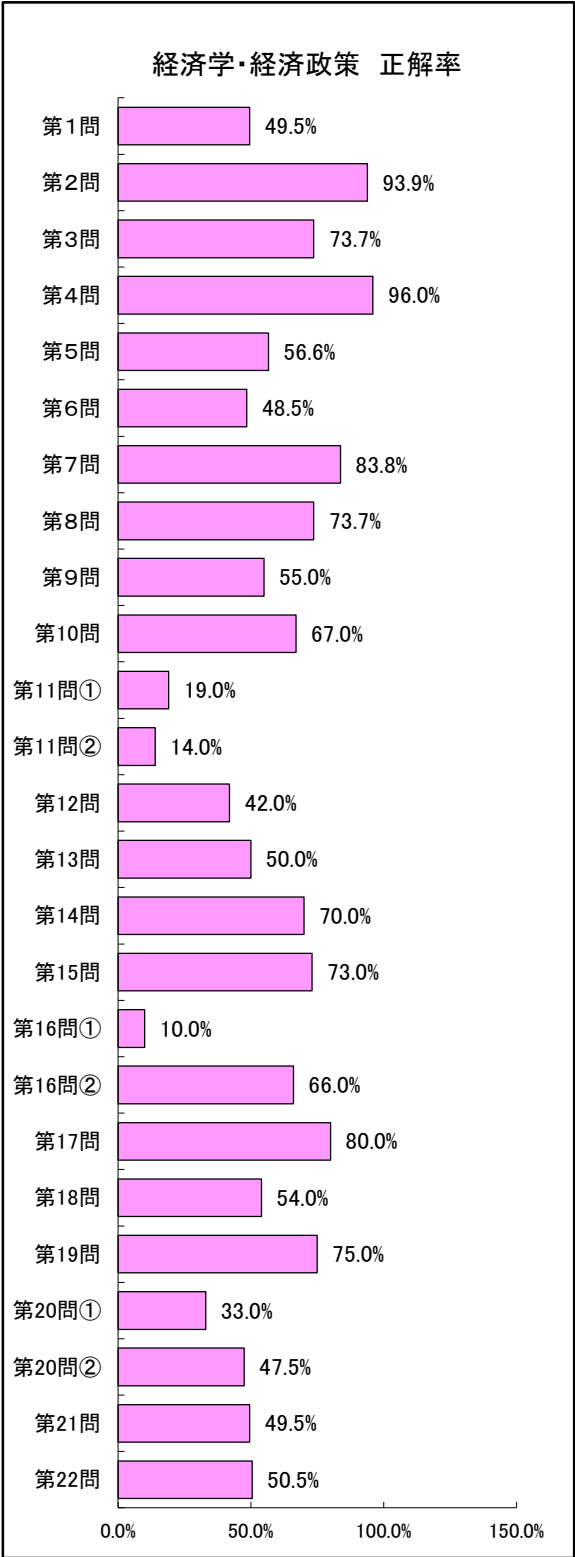
経済学・経済政策

平均点：57.9点、標準偏差：14.6

■ 得点分布



■ 設問別正解率

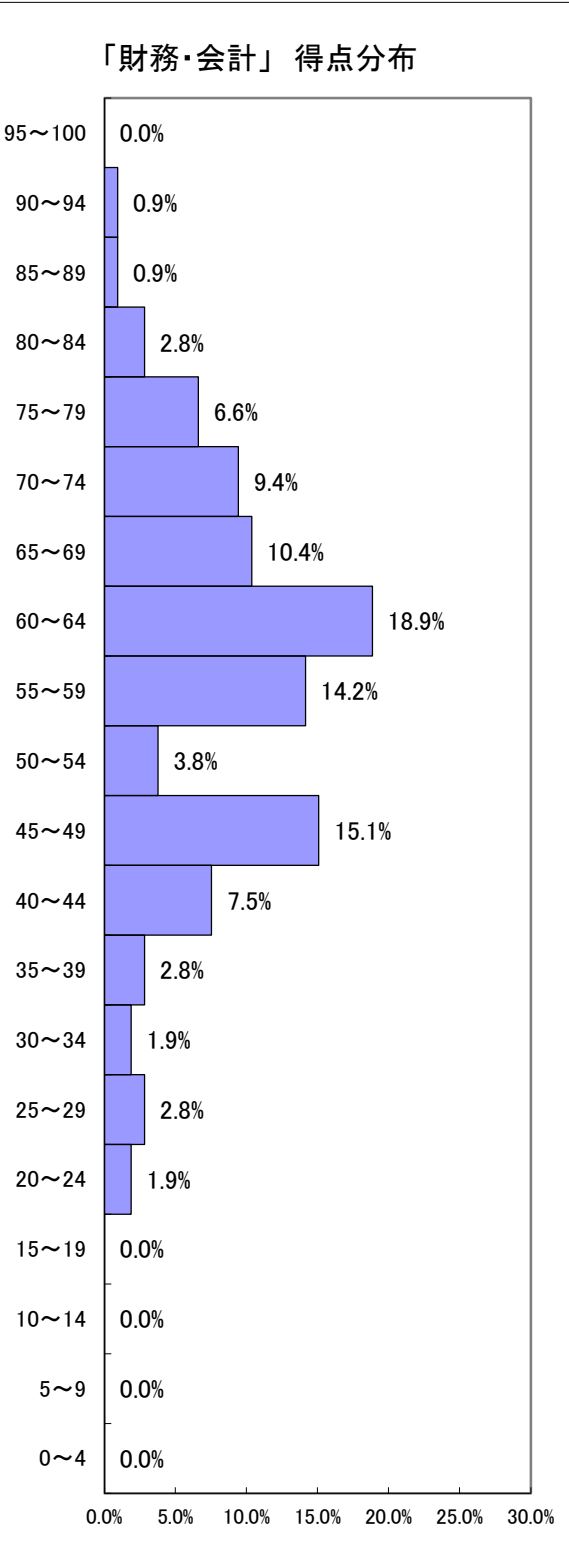


《コメント》
令和6年度の本試験は、過去23年間の設問数と同じで25問であった。また、前年度は25問中23問が5肢択一であったが、今年度は25問中21問が5肢択一であり、若干減ってはいるものの引き続き5肢択一の問題の多さが目立った。さらに、前年度は正誤の組み合わせ問題が11問出題されたが、今年度も11問出題された。近年の正誤問題の多さも大きな特徴である。難易度については、基本事項をもとに得点できる問題もあるが、5肢択一問題や正誤問題の多さが、昨年に引き続き全体的な難易度を上げている。つまり、前年度と同様、比較的高い難易度であったと予想できる。よって、今年の問題は、基本事項に関する問題を確実に正解できたかどうかで得点が左右されると思われる。本科目は、マクロ経済学、ミクロ経済学から出題されており、今年度は解答数ベースで、マクロ経済学13問、ミクロ経済学12問であった。

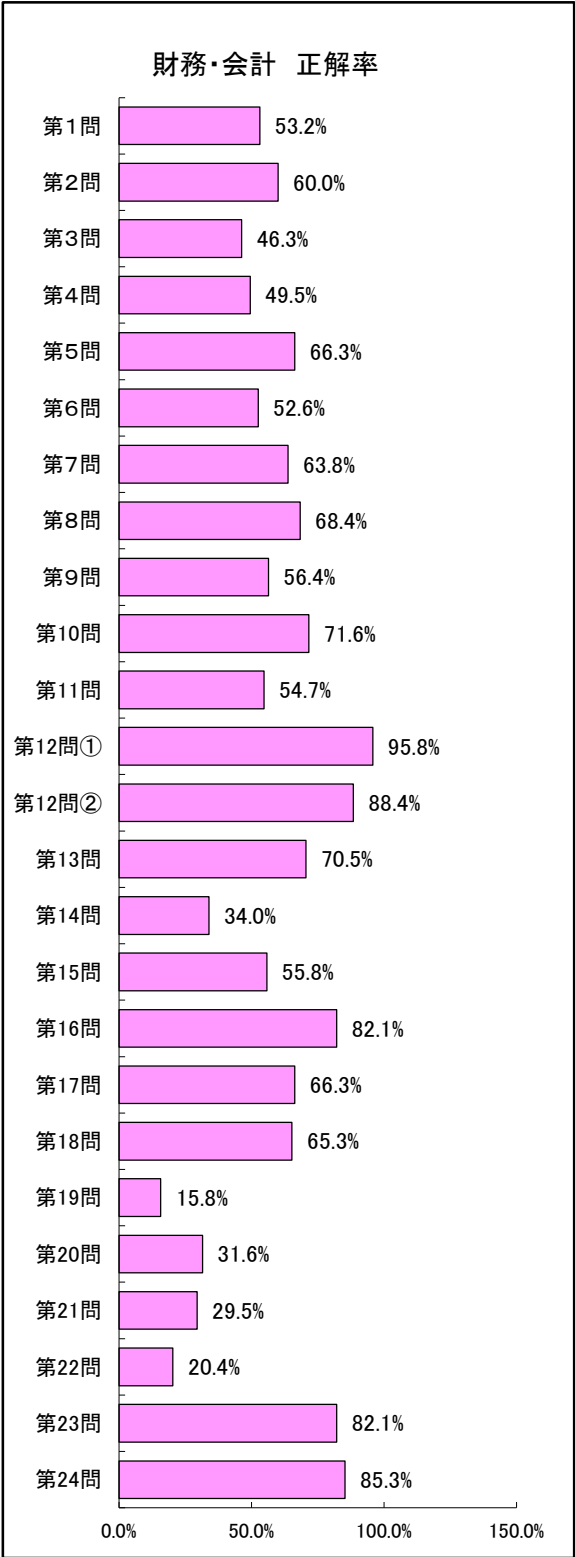
B 財務・会計

平均点：57.8点、標準偏差：14.2

■ 得点分布



■ 設問別正解率



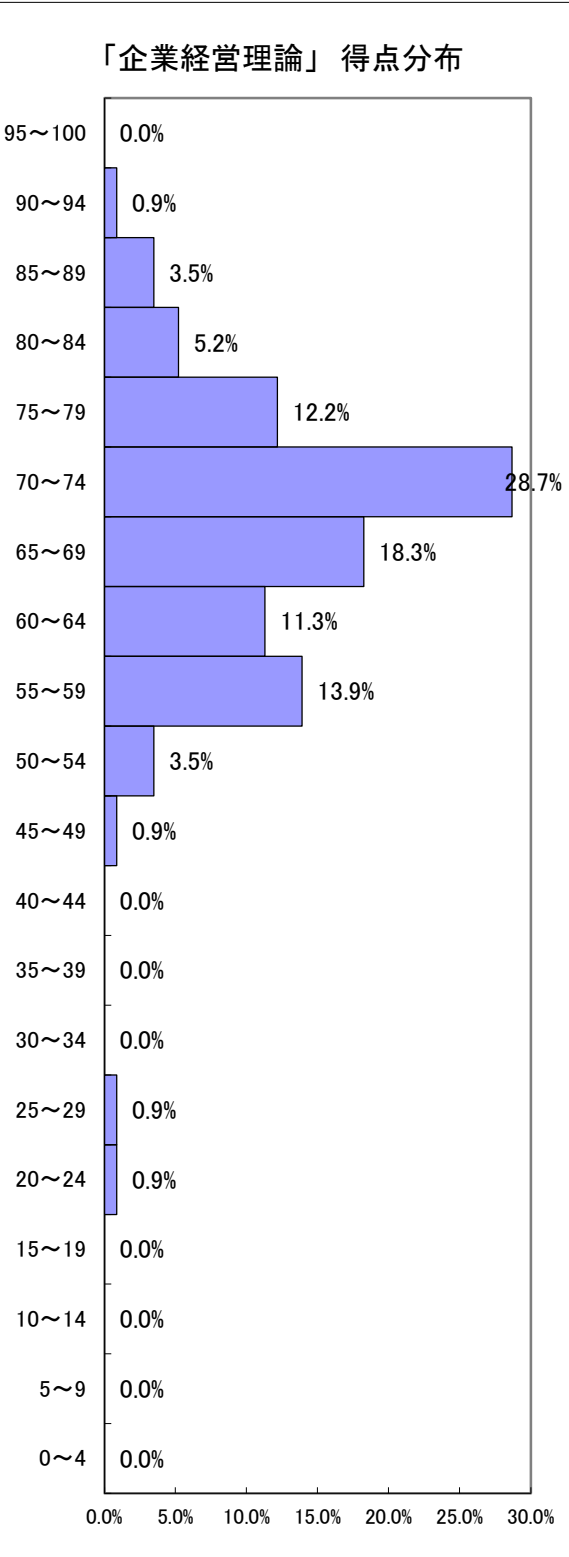
「コメント」

令和6年度の本試験は、問題数は24題（昨年23題）、設問数は25問（昨年25問）であった。5肢択一の問題が1問（昨年1問）で、残りは4肢択一の問題となっている。

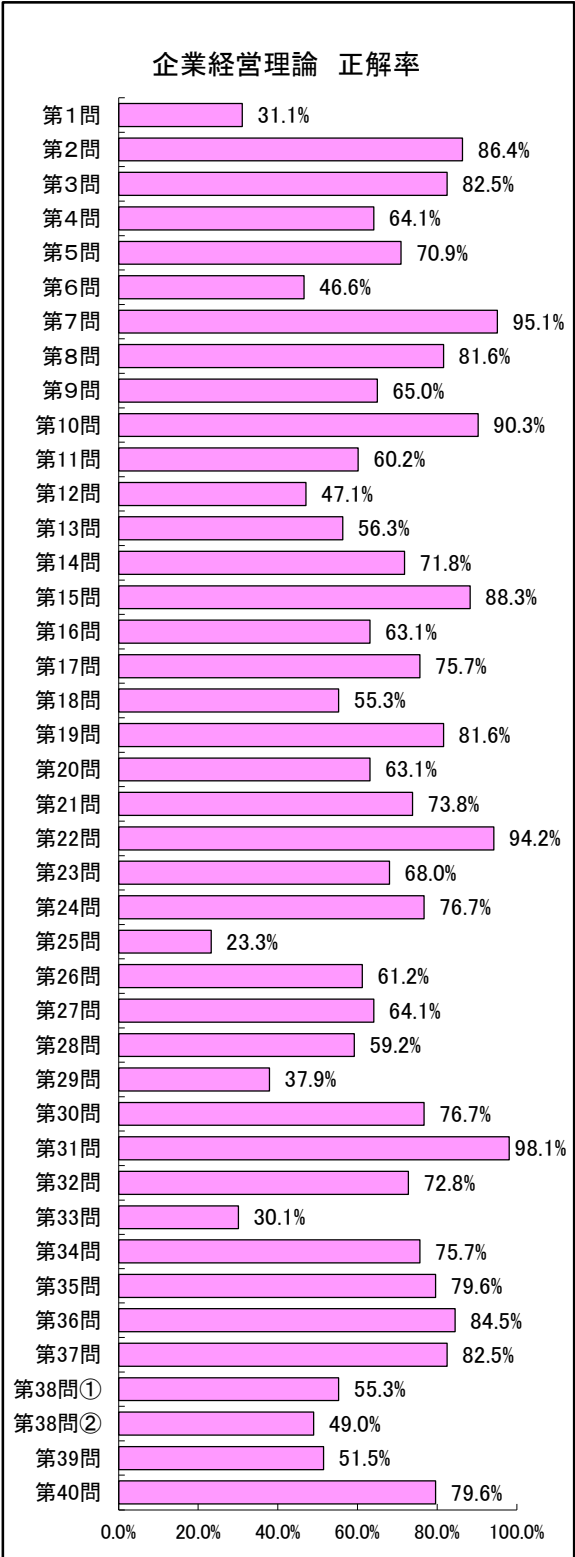
出題内容は、会計分野（財務会計・管理会計等）が15問（昨年15問）、財務分野（ファイナンス）が10問（昨年10問）であった。近年は、会計分野からの出題割合が高くなっており、昨年に引き続き、今年も会計分野の出題割合が高かった。出題論点を考慮すると、定番の論点の出題が少なく、全体的な難易度は昨年に続きやや高いレベルにあったと思われる。したがって、今年度はこの科目で60点を確保することが出来なかった受験生も多かったと思われる。

C 企業経営理論 平均点：67.9点、標準偏差：10.4

■ 得点分布



■ 設問別正解率



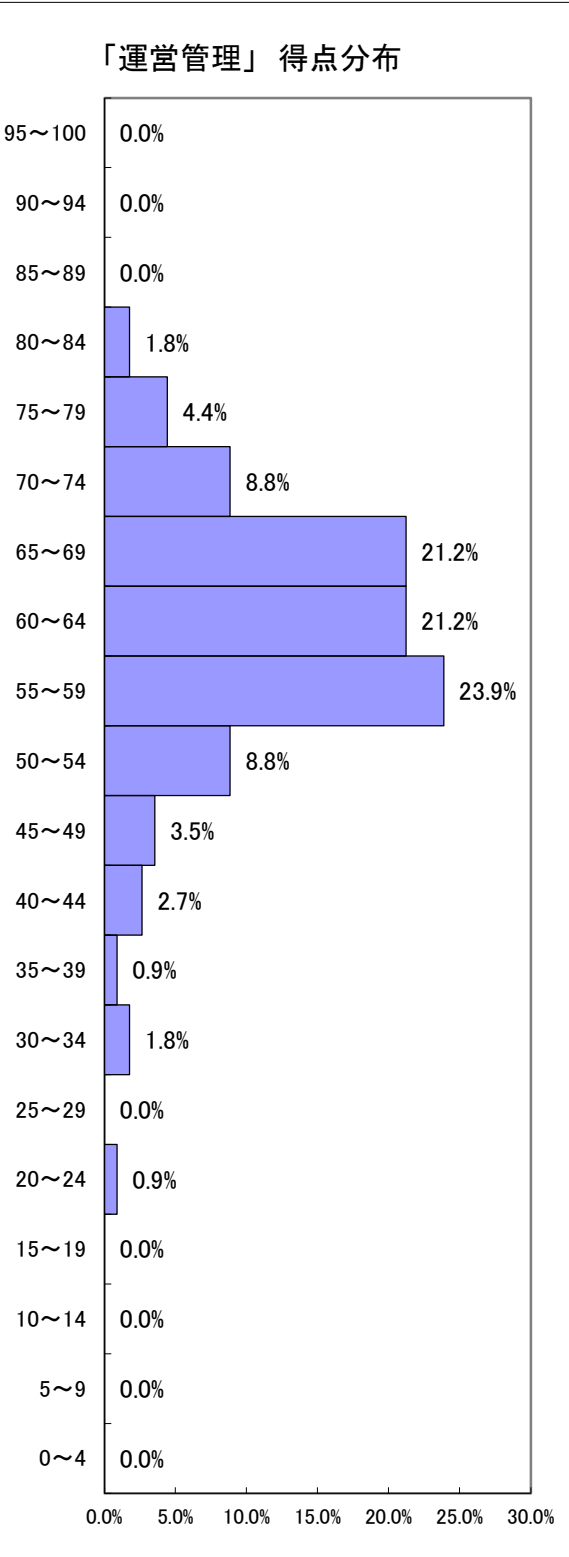
《コメント》

令和6年度の本試験は、量の面から見ると設問数は41設問と昨年と同数である。
難易度を定める要因の一つとして、選択肢の数があるが、4肢択一形式と5肢択一形式の問題を比較すると後者の方が難易度は上がる。本年の出題状況を見ると、4肢択一形式と5肢択一形式の設問の比率が15対26になっており、昨年の17対24よりも5肢択一形式の出題数が増加している。この点からは難易度は下がっていないと思われるが、昨年度までと比べ、解答の判断がしやすい問題もあり、全体としては例年並みの難易度もしくは難易度はやや低くなったと思われる。
出題の分野別内訳をみると、戦略論が13設問（第1問～第13問）、組織論が14設問（第14問～第27問）、マーケティング論が14設問（第28問～第40問）であった。近年の出題傾向と比較しても、出題の分野別内訳はほとんど変化していない。

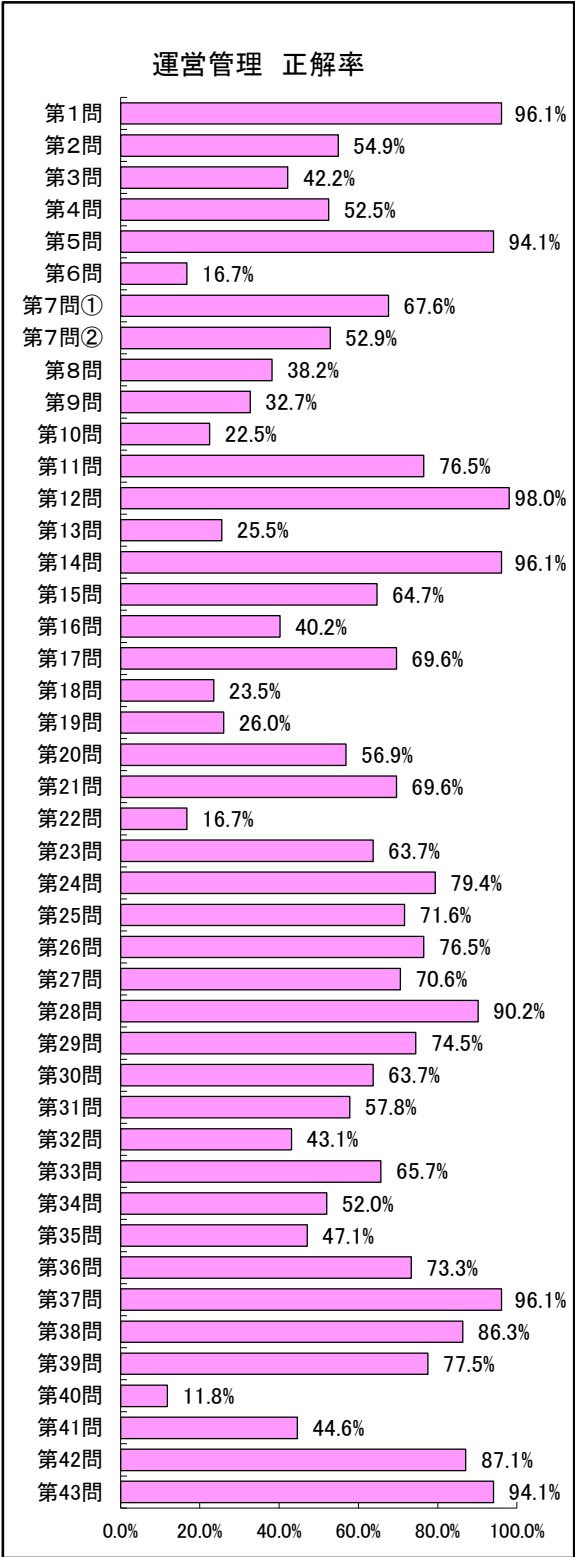
D 運営管理

平均点：60.6点、標準偏差：9.8

■ 得点分布



■ 設問別正解率

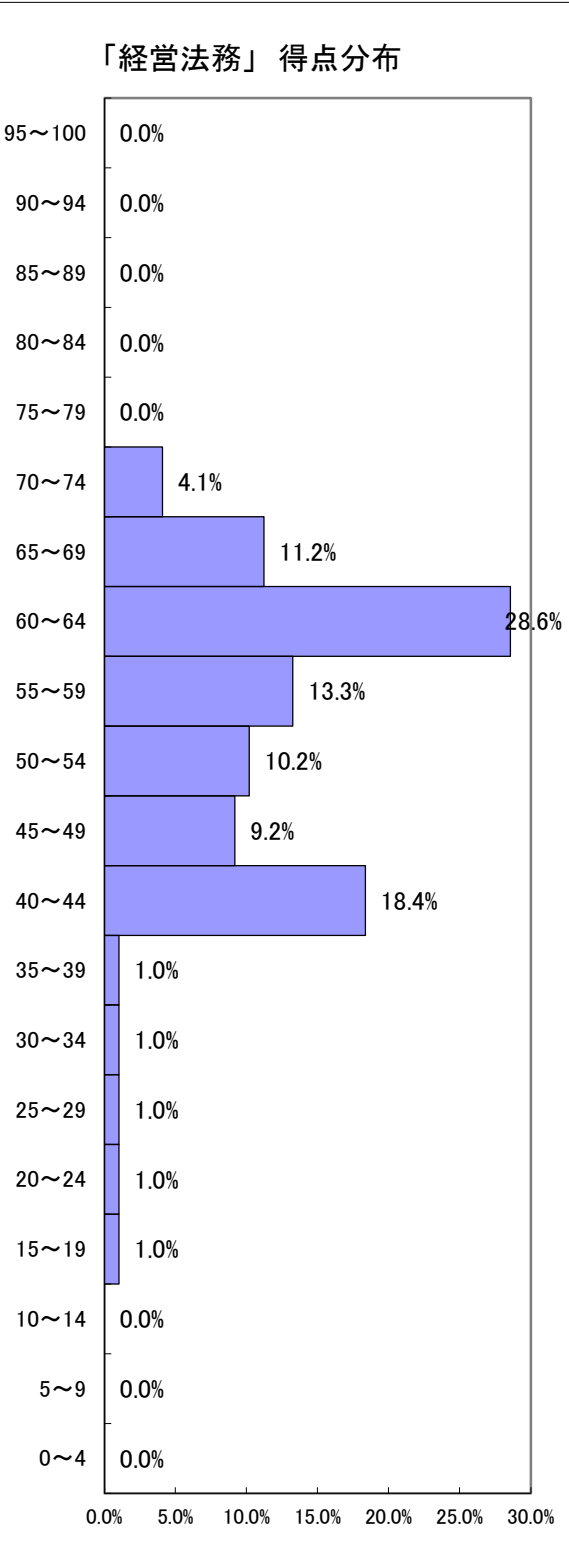


《コメント》
令和6年度の本試験は、運営管理44問（昨年44問）のうち、22問が生産管理（昨年22問）、22問が店舗・販売管理（昨年22問）であり、例年どおり偏りのない出題内容であった。また、5肢択一の問題が生産管理13問（昨年20問）、店舗・販売管理18問（昨年19問）であり、昨年と比べて減少した。しかし、計算関連の問題が11問（生産管理8問、店舗・販売管理3問）出題されており、その他にも、その場で内容を把握して解答を導かなければならない問題も比較的多かったため、解答を見直す時間が不足した方も多かったと思われる。
しかし、生産管理、店舗・販売管理いずれも過去に同様の出題がされた問題も多かったため、全体としては標準レベルの難易度もしくは難易度がやや低くなったと思われる。したがって、基本事項に関する問題を確実に正解できたかどうかで得点が左右されると考えられ、今後も、過去問題の攻略は必須であると考えられる。

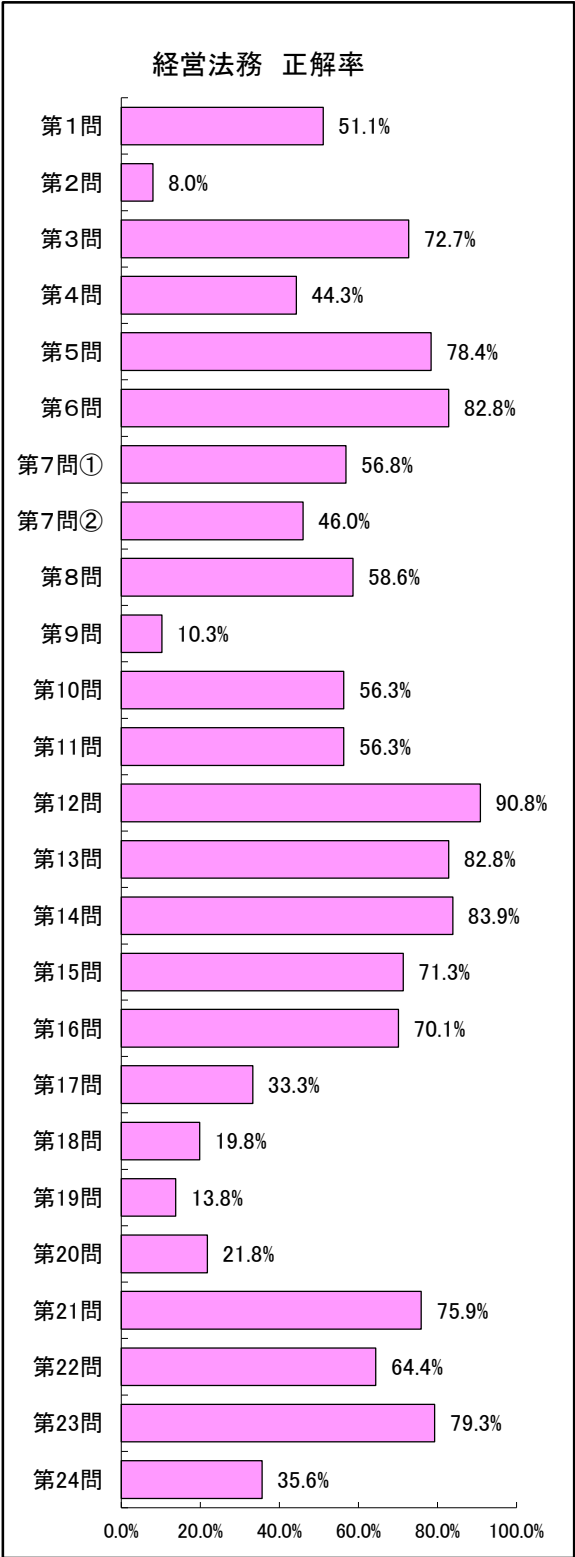
E 経営法務

平均点：54.4点、標準偏差：11.2

■ 得点分布



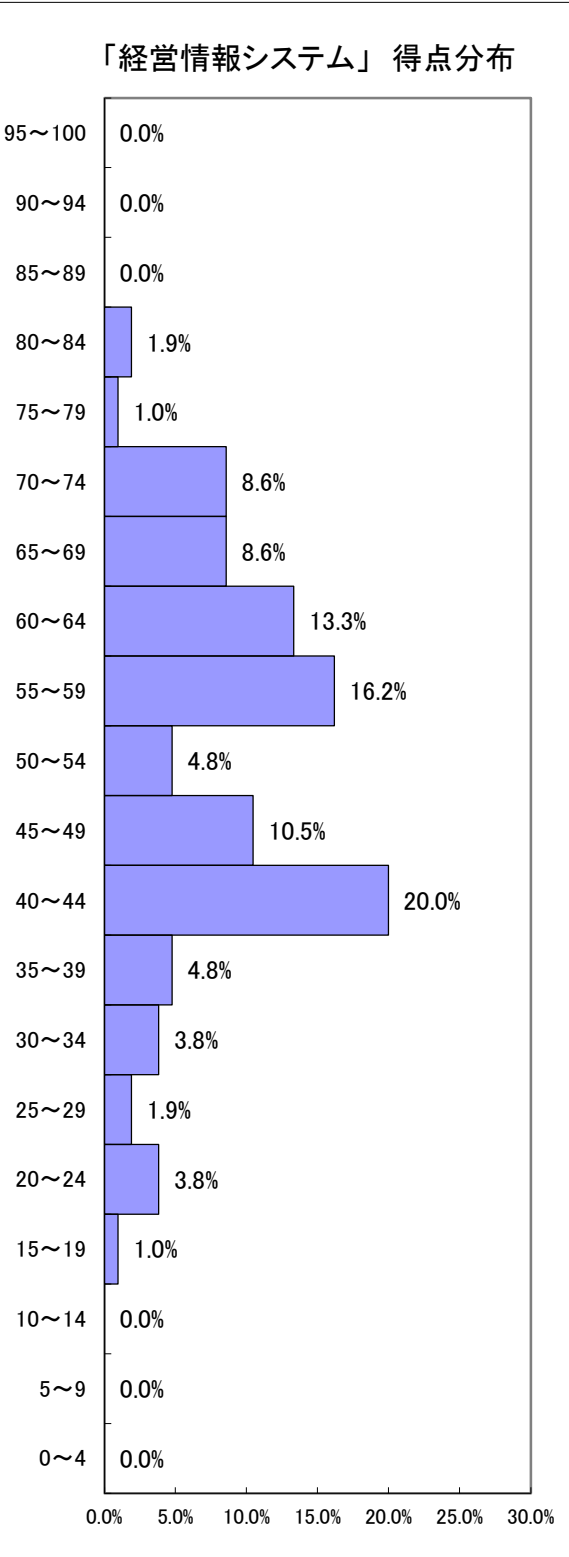
■ 設問別正解率



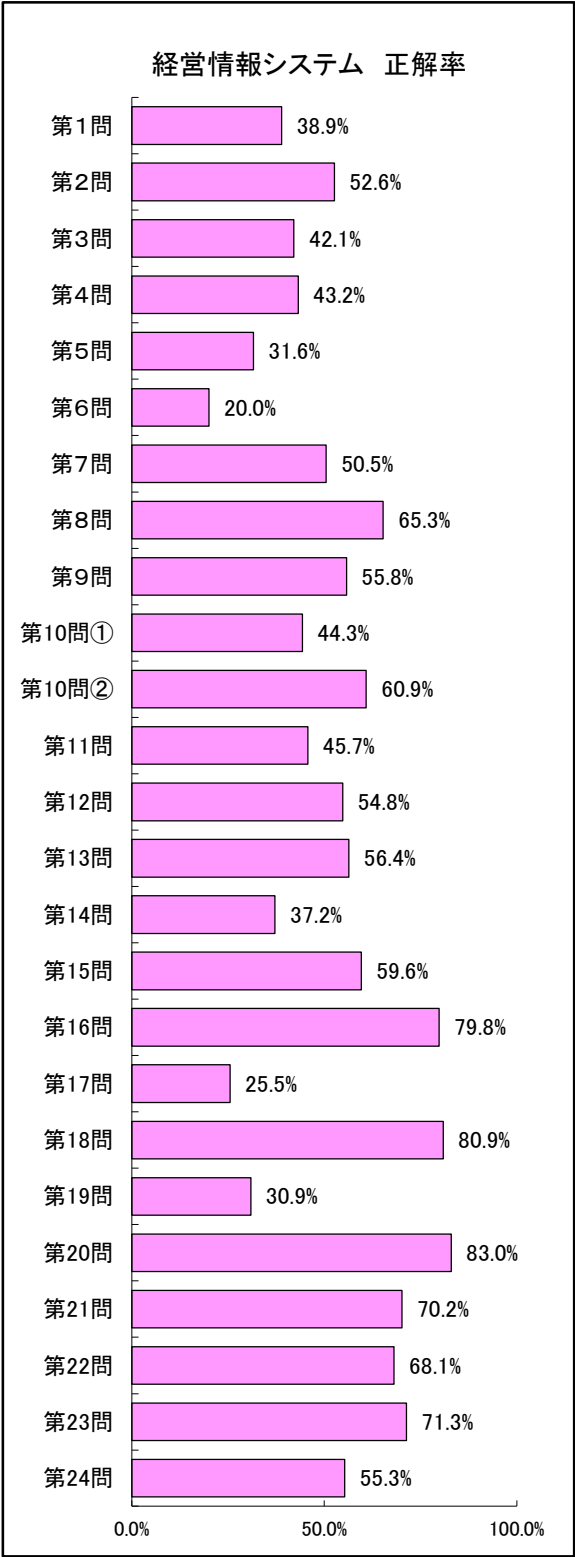
《コメント》
令和6年度の本試験は、問題数は24題（昨年21題）、設問数は25問（昨年25問）であり、昨年度とほぼ同じ問題構成であった。ボリュームは例年並みといえる。
出題内容は、会社法関連が9問（昨年8問）、知的財産権関連が9問（昨年7問）、民法が3問（昨年1問）・その他が4問（昨年9問）であった。出題内容の特徴としては、会社法関連の出題は昨年よりも1問多く、民法の出題数も昨年と同様少ない問題数であった。知的財産権関連の出題数は、昨年より増えて例年通りとなった。出題の中心は、会社法と知的財産権関連であると言える。また、独占禁止法、景表法、消費者契約法など、「その他」の出題は減少した。
全体的な難易度は、出題数が多かった会社法関連、従来から比較的得点を確保しやすかった知的財産権関連を合わせても標準レベルの問題が多く、また、過去に出題された論点と同様の論点が多く出題されていたことを考慮すると、昨年度と同様の難易度（取り組みやすい）であったと思われる。しかし、解答の判断に迷う問題もあり、合格基準点である60点を確保することができなかった受験生も多かったと思われる。

F 経営情報システム 平均点：51.8点、標準偏差：14.2

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

令和6年度の本試験は、近年の設問数と同じ25問であり、そのすべてが昨年と同様5肢択一の問題であった。時事的な出題が多くなったため、昨年よりも難易度が高くなったと思われる。

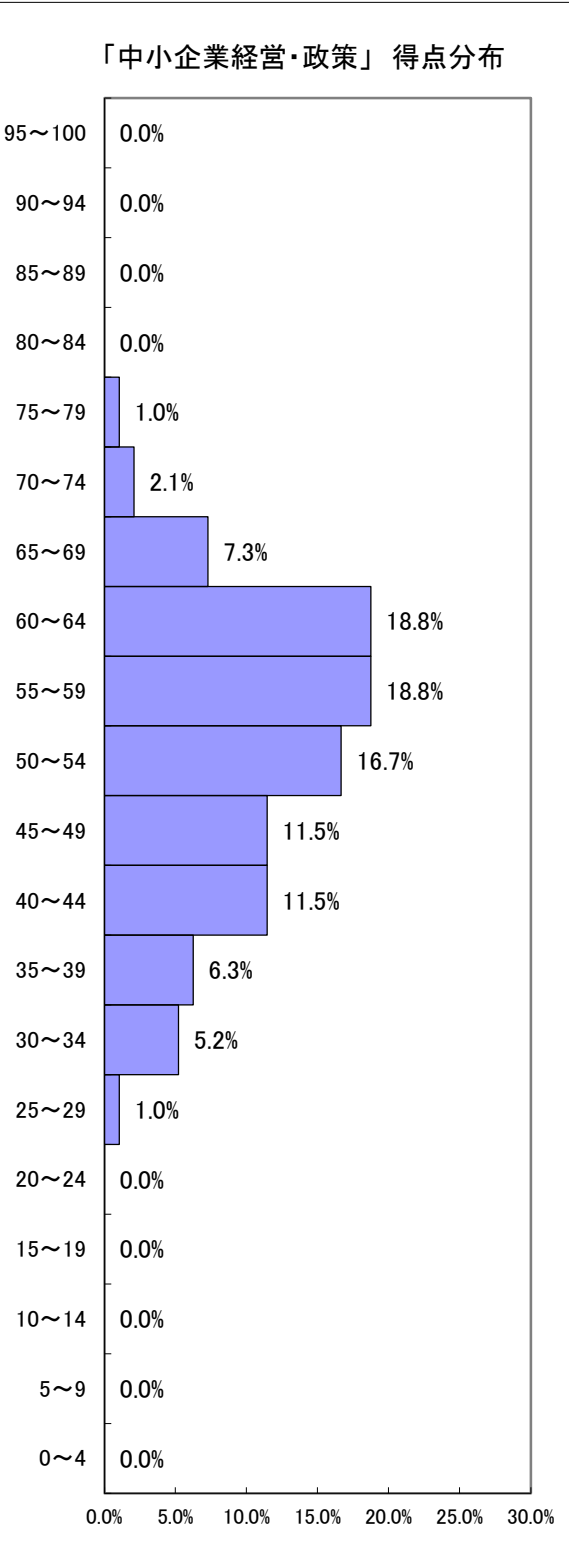
出題形式は、空欄補充問題2問（昨年3問）、用語と説明の組み合わせ1問（昨年3問）、計算問題4問（昨年4問）など多岐にわたっているが、正しいものの組み合わせ（昨年8問）を選ぶ出題形式が今年にはなくなり、代わりにすべての肢に正誤を判断する形式が出題された（8問）。出題の分野別内訳を見ると、概ね第1問～第9問が情報通信技術に関する基礎的知識、第10問～第24問が経営情報管理の出題である。特徴は、①時事問題・最新の内容の出題がある（第10問のDX推進、第17問のパスワードレス認証、第24問の生成AIなど）、②確実な知識で正解を絞り込むことができる問題が出題されている、③過去問題の類似問題も出題されている（第1問のタッチパネル、第21問のEVMなど）。

経営情報システムは、難易度のばらつきが大きい科目であるが、正解すべき問題、適切・不適切な選択肢について、基礎知識をフル活用しつつ、選択肢間の関係も視野に入れて選択・削除できる力が求められる。

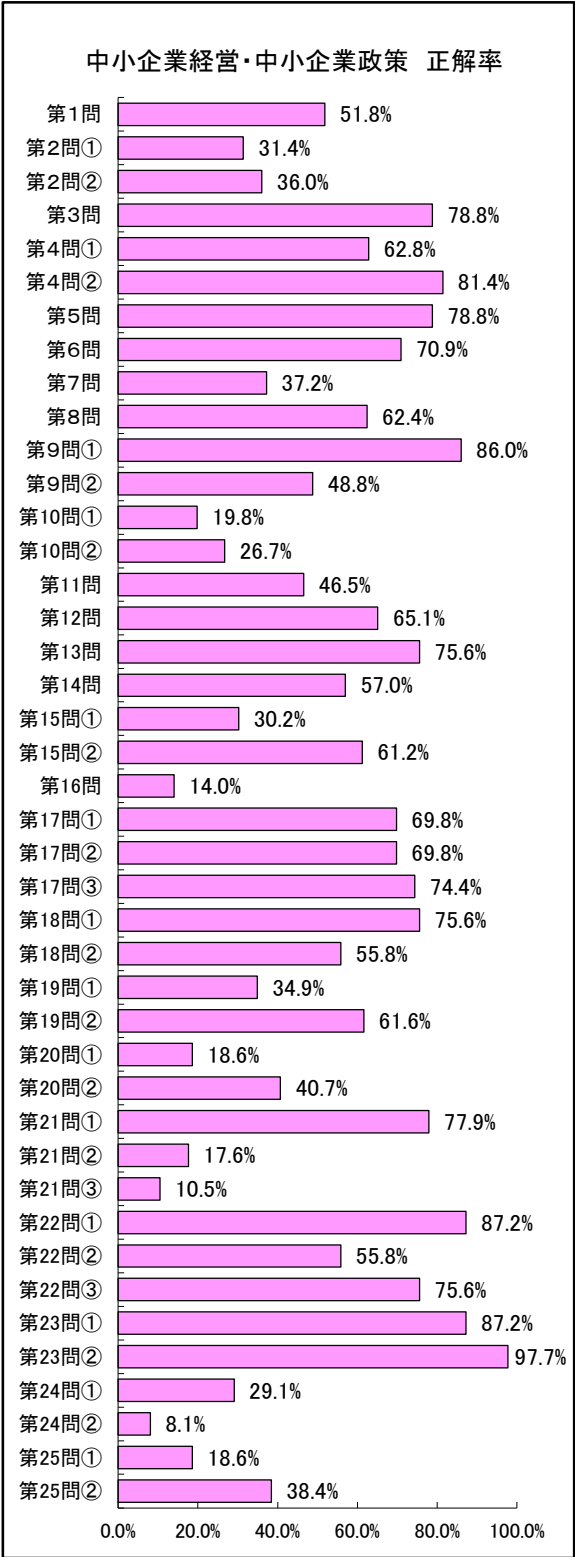
G 中小企業経営・中小企業政策

平均点：52.6点、標準偏差：10.7

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》
令和6年度の本試験は、42問の設問数であり、出題内容別で見ると、中小企業経営が21設問、中小企業政策が21設問と、例年どおりであった。
難易度は、中小企業政策は定番論点で確実に得点を積み重ねたいところであるが、中小企業経営は例年どおり難しく、全体的には難易度は昨年よりも高くなったと考えられる。
中小企業経営は、21設問のうち、『2023年版中小企業白書』からの出題が17設問、『2023年版小規模企業白書』からの出題が2設問、その他が2設問であった。中小企業経営は、白書の特徴をしっかり押さえられたかどうか得点に大きく影響する。
中小企業政策は、21設問のうち、概ね例年どおりの頻出論点を取り上げられている。